



台灣からの留学生インタビュー

桜修館では令和7年8月から、台湾の台北市より留学生を受け入れています。留学期間は令和8年7月までの11ヶ月で、現在5年生のクラスに所属し、他の桜修館生と一緒に日々の学校生活を送っています。留学開始から約4ヶ月が経過し、学校生活にも慣れてきたところで、留学生にインタビューを行いました。

Q 日本へ留学しようと思った理由やきっかけを教えてください。

A 去年の11月、修学旅行で福島県の二つの高校を訪れたことが留学しようと思った大きなきっかけです。あのとき、初めて日本の高校の雰囲気、充実した部活動を実感し、「こんなに美しい環境で高校生活を送ることができたら素晴らしいなあ」と強く憧れるようになりました。あれから日本語の勉強を続け、日本台湾交流協会の留学プログラムを通して、桜修館へ留学する機会を得ました。

Q 初めて桜修館に登校したとき、第一印象はどうでしたか。

A 台湾で通っていた生徒数約2,500人の学校と比べると、桜修館の校舎はとてもきれいでコンパクトだと感じました。また、みんなが同じ制服をきちんと着ているのを見て、統一感があって正式な雰囲気が印象に残りました。

Q 台湾の学校と日本の学校の違いはありますか。

A 大きな違いはいくつかあります。まず制服についてですが、桜修館では毎日全身制服を着て、放課後に運動部があっても、下校時にはもう一度制服に着替える必要があります。一方、台湾の高校では私服や体操服で登校することがほとんどで、逆に制服を着る機会が珍しいです。次に登校や放課後について。台湾の高校には朝や帰りのホームルームがなく、一限が始まる前に教室に入れば問題ないです。また、部活動は日本ほど盛んではないため、放課後はそのまま帰宅する生徒も多いです。さらに、試験形式にも違いがあります。台湾の試験は九割以上が選択問題で、授業で学んでいない内容でもテストに出て、初見の問題に対応する力が求められます。それに対して、日本の試験は記述や穴埋め問題が多く、暗記を重視する問題が多いと感じました。最後にマナーについて、台湾では授業の始まりや終わりに起立・礼をする習慣はありませんが、それだけではなく、日本では発言する人が誰であってもきちんと姿勢を正して礼をするのが印象的です。

Q 日常の学校生活の中で、一番楽しいことは何ですか。

A 一番楽しいのは、放課後に弓道の部活動に参加できることです。弓道は台湾ではなかなか体験できない、日本ならではの文化なので、練習に取り組むのがとても新鮮で楽しいと思っています。

Q 日常の学校生活の中で、苦労していることはありますか。

A 台湾の学校と比べると、桜修館には細かな規則や異なる点が多く、最初は少し厳しいと感じて、慣れるまでに時間がかかりました。また、授業内容は充実していて、放課後は部活動もあるため、楽しい一方、体力的には大変だと感じています。

Q 留学期間のこれから抱負を教えてください。

A 今後の目標は、日本語の古文をきちんと読み取れるようになることです。特に、最後の定期考査で、初見問題でも点数を取れるようになることを目指しています。